# 東京に暮らすベトナムのひとたち

＜ TBS ラジオ「人権 TODAY」の取材現場から　崎山 敏也 記者

## Q1 東京周辺にはどれくらいのベトナム人がいるのですか？

2019年の時点で、東京都内には約3万7千人、周辺の神奈川県、埼玉県、千葉県も合わせると 10 万人以上が暮らしています。
日本語学校や専門学校が多い東京では留学生の姿をよく見かけます。周辺では農業や工業の技術を身につけるため働く技能実習生が大勢暮らしています。また、80 年～ 90 年代にベトナムから難民として逃れてきた人は定住促進センターがあった神奈川県や東京の西のほうに多く、今は日本国籍の人もいます。

## Q2 どうして日本に来たのですか？

ベトナムは二つの国に分かれて、長い間戦争が続いたので、一つの国になったあと、負けた側の人たちが新しい政治のあり方に馴染めなかったり、迫害されたりして、海外に難民として逃れ、日本にも 40 年以上暮らす人がいます。一方、一つの国になったあと、経済は発展しましたが、人口も増え、貧富の差も生まれたので、生活の向上やチャンスを求めて、この 10 年ほど、技能実習生や留学生が急にものすごく増えているのです。

日本の人が一人ひとり違うように、ベトナムの人もネパールの人も一人ひとり違います。ベトナムでもネパールでも、あるいは他の国の人でも、自分の周りや学校にいたら、いろんな話をしてみませんか。

## Q3 日本ではどんな暮らしをしていますか？

ベトナム人難民の中には、日本語が十分できないまま暮らしてきて、親子で言葉が通じず、学校の大事なことが伝わらないことがあります。言葉が通じないと、病院に行ったり、高齢で介護を受ける時も困ります。一方、人口が減っている日本では、農家や工場で足りない人手を技能実習生が補い、コンビニや飲食店でアルバイトする留学生が増えています。しかし、いま、新型コロナウイルスの影響で、経済が良くありません。真っ先に辞めさせられ、どこかに相談したくても、ベトナム語の相談窓口が少なかったり、日本語では自分の状況を充分に説明できず、困っている人が大勢います。

## Q4 日本で暮らして困っていることはありますか？

人それぞれですが、高齢化している難民は日本で老後を楽しみたいでしょうし、子供や孫の中には、日本とベトナム、二つの文化を身につけているので、将来国際的に活躍したいと考えている人も少なくありません。一方、技能実習生や留学生たちは、給料を仕送りして実家を助け、身につけた技能をベトナムに戻って生かしたい人もいれば、このまま、日本で自分の能力を生かして働き、暮らし続けたい人もいるので、皆さんと将来、同じ職場で働き、同じ地域で暮らす人もいるでしょう。

## Q5 どんな楽しみや夢を持って、暮らしていますか？

例えば、留学生が多い、東京・高田馬場には、ベトナム風のサンドウィッチ「バインミー」の店が次々とオープンしています。また、私が取材した埼玉県川口市で開かれた旧 正月や秋祭りには技能実習生や留学生が大勢訪れ、ベトナム語で会話し、ベトナム風の食事や行事を楽しんでいました。日本で生まれ育ったため、ベトナムの文化を全く知らない難民の子供や孫たちも来ていて、留学生や技能実習生たちと時代や世代を超えて交流していました。

※本原稿は、東京都人権プラザ企画展「写真で知る“世界のともだち”」展（2020年7月27日～12月12日）の解説として執筆されたものです。本文中の統計データ等は執筆当時のものです。

執筆：崎山敏也／制作：東京都人権プラザ、2020年12月